

表一1 千利休切腹直前の動向^{1, 2, 3)}

文責: 前田秀一

年月日				出 来 事	備 考
天正	西暦	月	日		
13	1585	10	7	・秀吉の関白就任返礼の禁中茶会で後見役を務める 天皇らの還御後、台子の茶席担う	・9月下旬、「利休居士」号勅許 古溪宗陳から賀頌を贈られる
14	1586	4	5	・大友宗麟が島津義久攻撃への援軍を求めて上坂、謁見の際、秀吉家臣団 (豊臣秀長、宇喜多秀家、細川幽齋、前田利家、安国字恵瓊)と利休も列席	
		4	6	・大友宗麟国元の重臣宛の宗麟書状に、「辞去しようとする際、秀長より内々 之儀者宗易 公儀之事者宰相存候」、「宗易ならではの関白様へ一言も申し上 人無見及申候」と書き送った。	
15	1587	1	3	・関白秀吉、大坂城にて九州出陣大茶会に博多の豪商・神屋宗湛を招き厚遇	・博多商人の取り込み
		3		・関白秀吉、島津平定のため出陣	
		4	25	・宗及と三成、肥後の国で神屋宗湛を茶会に招く、翌日、宗湛秀吉の陣訪問	・三成と宗湛付き合い始まり。 利休の「内々の儀」干涉
		5	8	・九州平定(島津善久出家し、秀吉に降伏)	・秀吉、東国平定を目指す
		6	14	・利休、博多箱崎八幡宮で宗湛、島居宗室を茶樹に招く	
		6	19	・関白秀吉、宗湛、宗室を茶会に招く	
		6	25	・宗湛、関白秀吉を茶会に招く	
		6	26	・宗湛、三成、施薬院宗全を茶会に招く	
		12	3	・秀吉、関東、陸奥、出羽の大名に対して領土戦争禁止令「惣無事令」発令	
17	1589	12	5	・利休、大徳寺修造寄進、落慶法要	
18	1590	3	1	・関東陸奥両国惣無事令に反した北条氏倒伐のため出陣	・利休参陣(茶、参謀役)
		4	11	・山上宗二、秀吉の怒りを買って殺害される	
		6	5	・惣無事令に違反した伊達政宗、秀吉の参陣命令に遅れて小田原到着	・秀吉遅参を怒って会見拒否
		6	9	・利休のとりなしで、政宗、謁見許され弁解、秀吉の怒りを解く 政宗、利休に謝礼(太刀一腰、馬代金十兩)を贈り、茶の湯の指南を願い出	
		6	10	・秀吉、陣所で茶の湯をもって政宗を歓待	
		7	5	・小田原城落城、北条氏領は徳川家康へ与える	
		7	26	・葛西晴信、大崎義隆、小田原に参陣せず秀吉に領地没収、木村吉清統治	
		8	9	・会津黒川(会津城)にて奥州知行割仕置	・豊臣秀吉天下統一
		8	12	・秀吉、意気揚々と帰路につく	・秀吉、唐、天竺制覇を目指す
		10	初	・木村吉清の統治を巡って紛争勃発	・「葛西大崎一揆」前兆
		10	16	・岩手沢城・旧城主・氏家吉継の家来が領民と共に蜂起	・「葛西大崎一揆」勃発
		10	26	・命により蒲生氏郷(会津城主)と伊達政宗は11月16日より共同鎮圧合意	
		11	16	・伊達政宗の一揆扇動の情報に氏郷単独で一揆鎮圧出陣、秀吉に報告 (奥州お仕置きで惣無事儀に獲得した会津ほか8郡を没収された政宗が、失 地回復手段として一揆を起こさせて新領主の木村を失脚させ、一揆鎮圧の功 績をもって葛西・大崎旧領を獲得しようと企んだ)	
		12	28	・秀吉、豊臣秀次・徳川家康・石田三成を派遣して対策を命じた。	
19	1591	正月		・政宗、清州城で秀吉に一揆扇動は偽証である旨釈明し許される	
		1	20頃	・大徳寺三門上の利休木像が問題となる	
		1	21	・豊臣秀長、大和郡山城内で病死 利休、細川三齋に書状を送り、困窮して伏せているが茶碗「挽木蛸」進上する旨伝える	
		2	4	・伊達政宗、4千人の軍勢率いて上洛 古田織部に宛て、伊達政宗上洛を北白川に出迎えてのち、夜に訪問すると伝える ・利休、大徳寺聚光院に秘蔵の橋立の大壺をあずける	
		2	5	・聚光院に、橋立の大壺など自分の判がなければ渡さぬようにと依頼	
		2	13	・秀吉の命により堺へ追放される。淀の船着場に細川三齋、古田織部見送る	
		2	中旬	・前田利家の秀吉への詫言上のすすめを断る	
		2	25	・辞世の偈、和歌をしたためる ・大徳寺三門の木像、一条戻橋に磔にされる	
		2	26	・京都に呼び戻され聚楽屋敷に入る	
		2	28	・この朝、「一期一会」ののち切腹	
				この年、利休自害後、道安は飛騨高山の金森長近に、少庵は会津の蒲生氏郷に預けられる	

<引用文献> 1) オルガ・ボホリレス1995「千利休の政治的側面」『野村美術館研究紀要 第4号』(財)野村文華財団 p.1

2) 千 宗室監修2008「利休宗易年譜」『裏千家今日庵歴代第1巻 利休宗易』淡交社 p.138

3) 福井幸男2014「千利休切腹の原因およびその後の千利休の死を巡る言説に関する研究」福井幸雄博士論文(2014年3